

ナフサ供給不安 51.7%が「在庫確保」でリスクに備える

需要側の在庫確保と供給側の選別が同時進行
収益力による対応力格差が鮮明に



調査期間: 2026年5月21日~5月31日(インターネット調査)
有効回答企業数: 4,604社

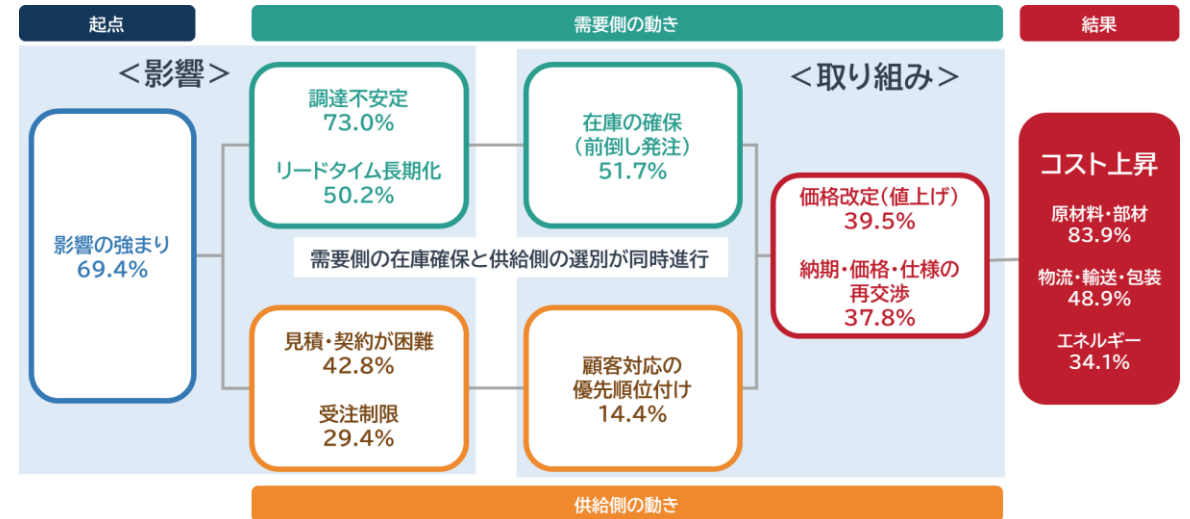
■本件照会先
営業企画部 部長 上西伴浩(カミニシ トモヒロ)
調査担当: 貞閑洋平(サダカ ヨウヘイ)、松永雄大(マツナガ タケヒロ)

03-5775-3210(直通)
tdb_marketing@mail.tdb.co.jp

<調査結果サマリー>

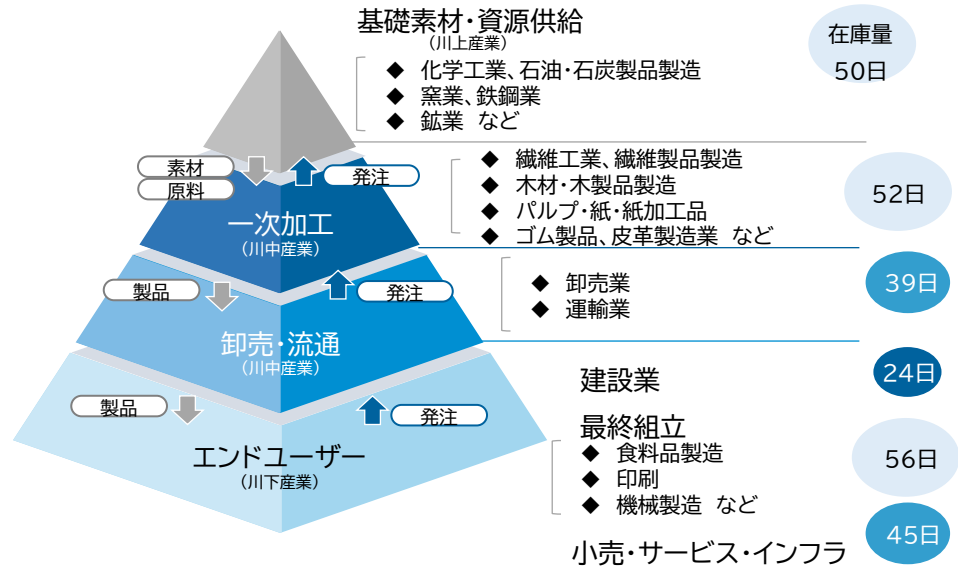
- 約7割の企業が影響の強まりを感じ、原材料・部材コスト上昇が83.9%でトップ
- 最も支障が生じている資材は塗料など化学系加工資材で29.6%
- 商流・業種で在庫余力に差、建設業は24日分
- 卸売・流通で供給先の優先順位付けが進む
- 収益力と経営基盤が価格高騰への対応力を左右
- 資金繰りへの影響、収益力と借入負担で明暗

ナフサ供給不安による影響と企業行動



需給調整の過程では、川上・川中企業による価格改定や見積条件の見直しが進み、これらが仕入価格の上昇として表れている

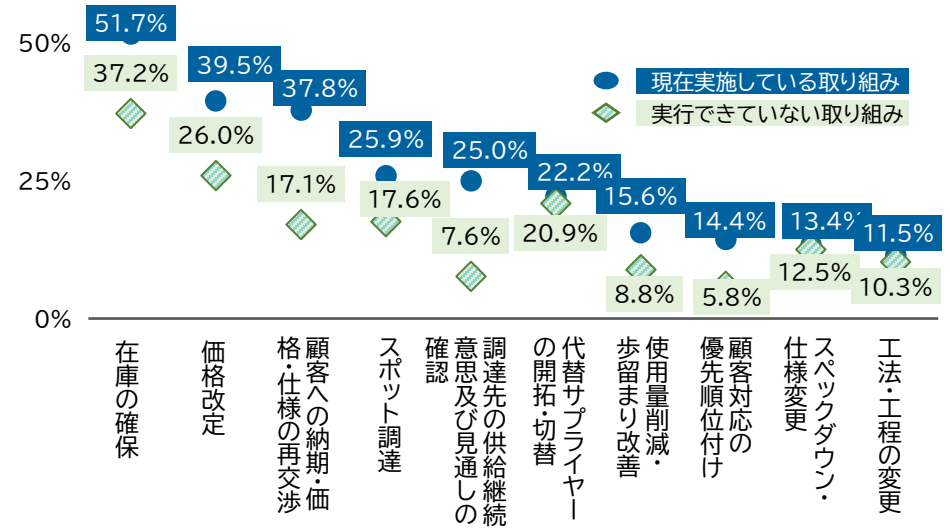
商流別推定在庫量



・基礎素材・資源供給を担う川上産業の平均在庫量は50日分、川中産業では「一次加工」で52日分を確保していたものの、中間流通を担う「卸売・流通」は39日分にとどまった

・最も少なかったのは「建設業」で24日分

ナフサ製品不足を受けて実施している取り組み

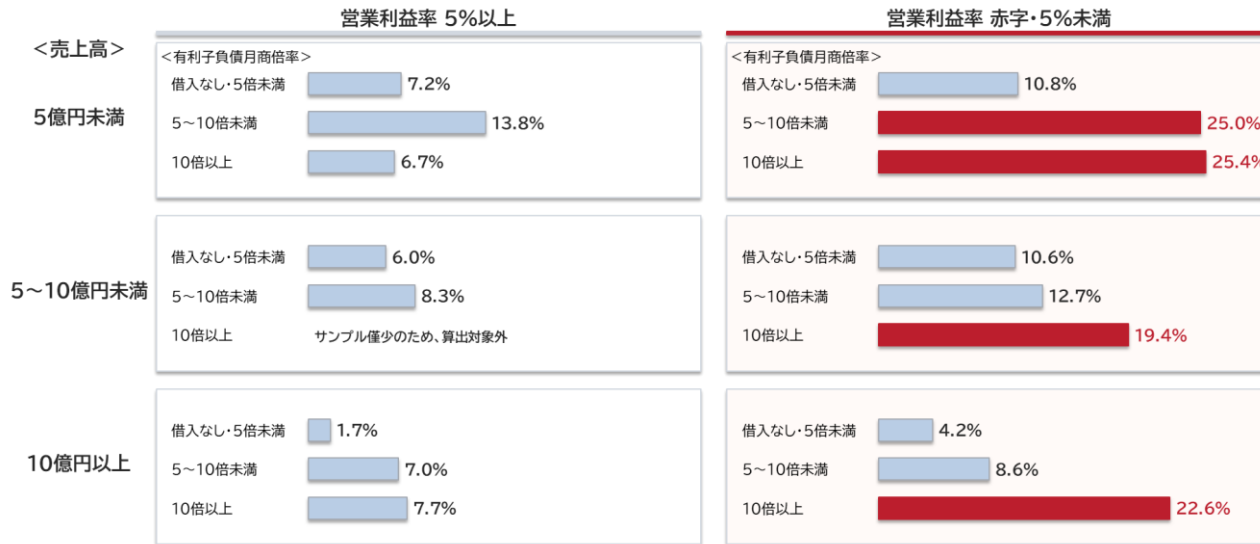


・在庫の確保が51.7%と半数を超え、価格改定、顧客への納期・価格・仕様の再交渉と続き、価格や取引条件の見直しを進める企業も多い

・「顧客対応の優先順位付け」は全体で14.4%だったが、「卸売・流通」では21.6%と、商流上で唯一2割を超えた

ナフサ由来の製品群における影響は、全面的な供給停止というよりも、商流や業種によって在庫の持ち方に偏りが生じ、一部の資材・業種で調達の目詰まりが起きやすい状況として捉えられる

資金繰りへの影響(規模×収益性×借入負担)



売上高5億円未満の小規模企業でも、営業利益率5%以上かつ有利子負債月商倍率5倍未満の企業群では、「資金繰りの悪化」は7.2%にとどまった。

一方、売上高10億円以上であっても、赤字または営業利益率5%未満、かつ有利子負債月商倍率10倍以上の企業群では22.6%に達し、3倍以上の開きがみられた。